

0.2ミリケイ・ハダ  
252<sup>ミ</sup>↑  
178<sup>ミ</sup>

2.5ミリケイ・20%  
70<sup>ミ</sup>↑  
80<sup>ミ</sup>

oki-Nawa.tif  
50%に縮小  
x23<sup>ミ</sup>  
y23<sup>ミ</sup>

80% 50a 新ゴB (x92.5<sup>ミ</sup>)

0.3ミリケイ・ハダ 流用



x131<sup>ミ</sup>  
y46<sup>ミ</sup>

1ミリケイ  
20%  
28.5<sup>ミ</sup>↑  
59<sup>ミ</sup>

0.2ミリケイ  
白ヌキ  
70%  
x33<sup>ミ</sup>・白ヌキ

1/2a 新ゴB (12) H

x85<sup>ミ</sup>  
y46<sup>ミ</sup>

23%に縮小

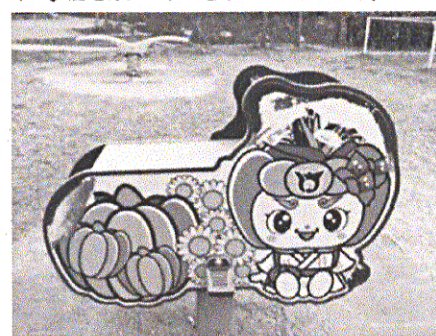
1/2a 新ゴB (12) H

x133<sup>ミ</sup>  
y110<sup>ミ</sup>

写真2

南風原町のイメージキャラクター「はえるん」

南風原町の特産品がモチーフで、琉球絣の着物を身にまとい、頭はカボチャとストレリチアとブーゲンビレア。南風原町はストレリチアの生産が日本一。眉毛はシーサーをイメージしている。



43<sup>ミ</sup>↑  
57<sup>ミ</sup>

x133<sup>ミ</sup>  
y110<sup>ミ</sup>

南風原町は、那覇市に隣接する人口4万人強の自治体で、“はえちるちよう”と読みます。海に面しない内陸に位置し、県内では唯一の海に面していない自治体です。農産物の生産が盛んで、「南風原カボチャ」「ヘチマ」「青パパイヤ」「スターフルーツ」などの地場野菜が直売所で手に入ります(写真1)。南風原カボチャは、完熟すると糖度が20度を超える強い甘味とホクホクとした食感が特徴で、県外にも人気があり、90%が県外の高級料亭などに出荷されるそうです。沖縄に来た当初は、カボチャはともかく、ヘチマや青パパイヤといった沖縄ならではの食材の調理方法はまったく知らなかったもので、買ってはみたものの日常の食卓に取り入れるのに苦戦した時期もありました。また琉球絣や南風原花織といった伝統工芸も有名です。琉球絣は主に絹糸を使用した織物で、草木を原料とした染料のほか化学染料などが使われています。沖縄の多彩な自然や動植物を取り入れた、琉球王国時代から伝わる約600種類の爽やかで美しい独特の幾何学模様が特徴です(写真2)。

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター(以下、当院)は、内陸高地という津波や高潮の影響を受けにくい地形的特性を活かして、災害拠点病院として台風、地震、感染症の流行などの災害時でも、県内外への後方支援拠点として機能する重要な役割を担っています。県南部の基幹病院であり、麻酔科では成人から小児・新生児まで幅広い周術期管理を担っていますが、当院は特に周産期・小児領域に強みを有



写真1 南風原町にあるファーマーズマーケット「くがに市場」地産野菜・果物を豊富に取り扱っています。

しています。母体胎児集中治療室(MFICU)、新生児集中治療管理室(NICU)、新生児回復室(GCU)を備えた総合周産期母子医療センターおよび小児集中治療室(PICU)を有する県内唯一の体制のもと、麻酔科では、先天性心疾患手術、早産児・低出生体重児手術、超緊急帝王切開手術など、多彩で高度な症例を担当しています。

麻酔科は現在、専門医8名、専攻医1~2名、歯科麻酔科医1名の体制で運営しています。特に小児・産科領域の麻酔経験を積むために、琉球大学医学部附属病院を始めとする県内主要施設から、若手専攻医が数か月単位で研修にきています。さらに県外からも幅広く受け入れており、こうしたネットワークを通じて、地域に根ざしつつ全国水準の医療を日々実践するよう努めています。

また、南風原町は那覇空港や他地域からのアクセスが非常に良好です。そのため当院の医師は、さまざまな地域から通勤していますし、職場で濃厚な研鑽を積んだ後の息抜きとして、那覇市にあるお目当ての居酒屋に30分以内で繰り出し、沖縄の夜を十分に満喫できる環境にあります。都市的利便性と穏やかな生活環境が調和する環境は、医療者が研鑽を積むうえでも大きな支えとなっています。小児麻酔を重点的に学びたい、幅広い年代を対象とした麻酔管理を行いたいなど、理由はさまざまですが、ぜひ気軽に見学に来てください。お待ちしております。

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 麻酔科 東 龍哉